

連載

14

在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (62歳・内科)

“人の命の尊さを実感”
そして私は……。



私が小学校4年生頃の出来事です。
故郷(宇和島市柿原)の須賀川上流あたりは、
地元のわんぱく坊主たちの自然のプールとなっ
ていました。

その日は、上級生たちが男子女子入り混じって一
生懸命に水球をしていました。その中に妙に色っ
ぽいお姉さんがいたので、私は見とれていて溺れ
そうになりました。水球をしているその場所から上
流に向かって右岸には県道、左岸に畑があり、そ
の両岸に架かる1メートル幅ほどの橋の下をくぐ
って行くと、五右衛門風呂のような浅瀬があります。
その浅瀬で私はのんびりすることにしました。

しばらくして突然「大変だ!子どもが溺れてい
る!!」という叫び声が聞こえてきました。だれか
が川の深みに入ってしまい溺れたようです。すぐ
に畑に引き上げられ、急いで駆けつけた消防団
員が「1、2、3……」と人工呼吸を始めました。「医
者はまだか!」と誰かが叫んでいます。

やがて、一人の医師が自転車でやってきました。
川中の浅瀬にいた私はその様子をずっと見て
いました。県道から畑へと橋を渡る白衣の医師は
まるで、歌舞伎役者が颯爽と花道を渡るがごと
く見え格好が良く、私の目に焼きついたので。

そして悲鳴に近い泣き声に驚き、近づいてみ

ると、先生がご家族に「残念ながら、ご臨終で
す……」と優しく話されていました。

その医師はいつも往診してくれる我家のかかり
つけ医の立派な先生でした。

その時、私もこの先生のようになろうと心深く
決心したのです。それからの私はわんぱく坊主
からガリ勉生徒に変貌しました。

患者さんのためになる医師を志していますが
“言うは易く行なうは難し”を日々感じています。

後に出来たダムの上となり、その川はすでに
ありません。ですが、私の体の中には、まだその
光景が脈々と生き続けているのです。

「お医者さんが来てくれる」

質の高い在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>